



2024.11.10 大学・大学院 リユニオン in 多摩

# あまのあ

題字・河井道  
2024年度 第4号  
2025年1月7日発行

新年を迎えました。二〇二五年は二一世紀四半世紀最後の年です。振り返ってみて、内外ともに激動に見舞われた歳月でした。日々の暮らしにおいても、めまぐるしい変化に追いつくことに精いっぱいだった一方で、変えてはならないもの、変わらずに受け継ぐべきものを探し続ける心を保つ大切さを思うこともしばしばです。

昨年、テレビドラマ『不適切にもほどがある!』(TBS系)が大きな話題を呼びました。昭和と令和の時代をタイムスリップして、人びとの暮らしや価値観の相違をコミカルに描いた秀作で、数々の賞に輝きました。そのうちの一つ「第40回ATP賞テレビグランプリ」受賞式に参加した折、登壇した脚本家宮藤官九郎氏の挨拶が印象に残っています。「主人公にはいくつかの決まり文句がありますが、その中で一番たくさん言っているのが『本当にそうかな?』なんです。(中略)『本当にそうかな?』が、僕がなにかを創るとき原点なんです」。

SNSやAIの普及で、私たちの情報入手やコミュニケーションのあり方も大きく変わっている昨今です。『本当にそうかな?』といつもつぶやきながら、目の前の事象と向き合う姿勢は、私たちが、ただ社会の変化や時代の要請に流されることなく、他者を尊重しながら

自分を大切に、自分らしく生きる力となる恵泉ブランド「生涯就業力」に通じるものです。そこで大切なことは、何を見るか以上に、どの「視座」から見るかではないかと考えます。

物事を見るとき、よく使われるのは、どの観点から見るかを意味する「視点」ですが、私がここであえて用いる「視座」は、どの観点から見るとさらに掘り下げて、どの立場で見るとかという意味を含むものです。日々、大学で学生たちと接し、また、NPO活動で子育て世代や地域のさまざまな世代の人々

## 学生たちの「視座」に励まされて

大学学長 大日向雅美

と接する中で、価値観や人間関係の違いを知る面白さとそれに対処する心持は、「視点」ではなく「視座」にあるように思うからです。

「視座」の大切さを痛感するのが、ここ数年の『恵泉祭』です。恵泉祭は学生主催で行われるもので、テーマも実行委員の学生たちが考案します。昨秋開催された「恵泉祭2024」のテーマは「輝く」でした。二〇二二年の「つながる」、二〇二三年の「想う」に続けて、学生たちが「輝く」を選んだことに私は深く胸打られました。

今、多摩キャンパスに学んでいる学生たちは、高校生活も大入学後もコロナ禍に翻弄され続けた世代です。そこにさらに追い打ちをかけられるかのようになり、数年後の大学閉校のニュースに直面し、それを受け入れたの学生生活を続けている学生たちです。これまで、そして今なお抱えているままならぬ日々へのもどかしさと深い胸の痛みを思うと言葉がありません。

それでもなお、学生たちはめげることなく、人と人の「つながり」の大切さをかみしめ、卒業生や先輩方を「想う」ことで、

しっかりと前を見て学び続けようとしてくれているのです。どのような環境にあっても、しなやかに強く生きようとしている、多摩キャンパスの学生たちのとらわれのない澄んだひたむきさと凛としたたたずまいに、単に感動という言葉で表すことが軽薄に思えるほどの感慨を覚えます。学生たちの「視座」に学び、励まされる思いです。

大学閉校に関して、卒業生・退職された教職員・同窓生の皆様、その他関係の方々は、それぞれにさまざまな思いを抱かれています。哀しくも、残念な思いは同じとしても、「視座」によってご覧になっている景色が異なることは当然のことと考えます。数多くのご支援のお言葉に心から感謝しつつ、他方でご批判のお考えがあることも承知しております。皆様の思いとお言葉の一つひとつを大切に胸に留めながら、多摩キャンパスの教職員は今、在学生たちが恵泉での学びと学生生活を十分に経験し、社会にはばたくことができるよう、最後まで、できうる限りの力を尽くして学生たちを守りぬくことに全力であたっているところです。

とはいえ、なかなか厳しい現実を前にすることも少なくないことは言うまでもありませんが、そうした中、学生たちの「視座」に日々、新たな力を得ております。すでに十分に輝いている学生たちですが、さらに磨き続けて自分らしく「輝き」、社会のために尽くしたいとの覚悟を昨秋の恵泉祭に掲げた学生たちに、「汝の光を輝かせ」と願われた河井道先生のお心がたしかに受け継がれていることを、ぜひとも皆様にお伝えさせていただければと思います。

皆様におかれましては、常日頃から学生たちにご支援を賜っておりますこと、心から感謝し、厚く御礼を申し上げます。どうか引き続き温かく見守り、お励ましをいただけましたら大変有難く存じます。